

わかば基金 30周年アンケート

1989年に始まった「地域福祉を支援する『わかば基金』」は、2018年に30回目を迎え、これまでに700を超えるボランティアグループやNPOの活動を応援させていただくことができました。

そこで今回、「わかば基金」が皆さまの活動にどんな影響があったのかをお聞きするアンケートを実施しました。影響以外にも「わかば基金」への要望や皆さまが日頃活動している中での課題点やどう解決に導こうとしていらっしゃるのかをお聞きしました。

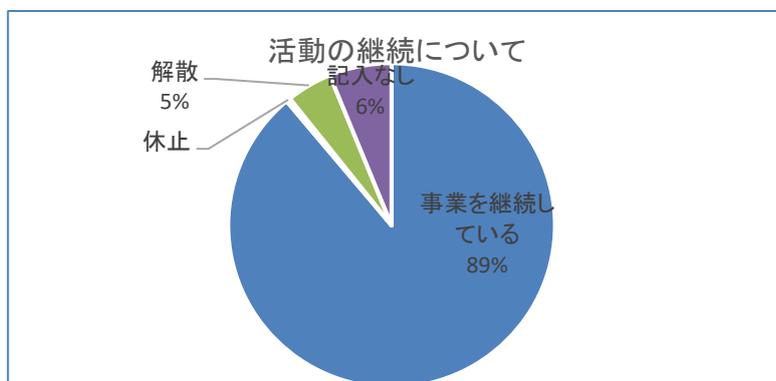
お寄せいただいた集計結果とお寄せいただいた意見などの一部をご報告いたします。

対象	第1回から第29回までの支援グループ（総数：706）	
調査期間	2018年8月27日～9月30日	
方法	メール、郵送によるアンケート送付	
送付数	682（内訳） 支援金部門 リサイクルPC部門 東日本大震災復興支援部門 連絡先不明で送付なし	393（メール179、郵送214） 239（メール144、郵送95） 50（メール34、郵送16） 24
回答数	244（内訳） 支援金部門 リサイクルPC部門 東日本大震災復興支援部門 ※回答者のうち、分からないという状況のグループが5件 （内訳） 「わかば基金」の支援に覚えなし 支援を受けた当時を知っている人がいな	124（メール45、郵送79） 101（メール46、郵送55） 19（メール10、郵送9） 1 4
回答率	35.8%	

団体の活動、支援金の使用状況

活動の継続について

回答	件数
事業を継続している	216
休止	1
解散	11
記入なし	15

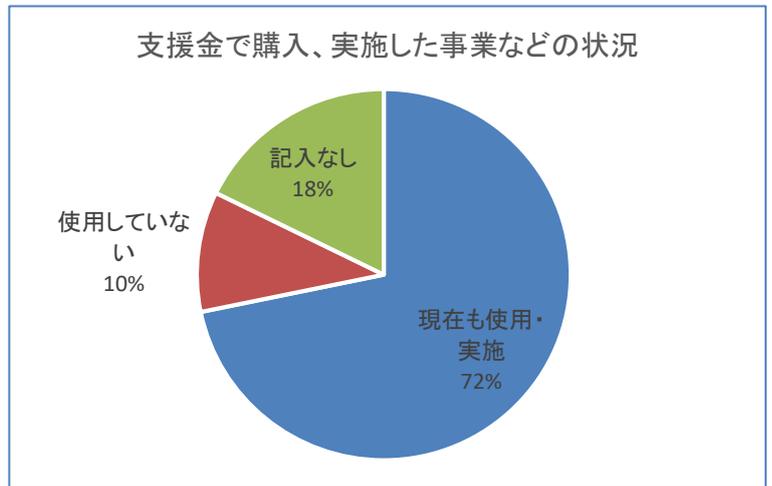


■休止・解散の理由

部門	活動の内容	理由
支援金	情報発信	ポルトガル語による支援が目的だったが、現在は支援する自治体が増えた事、インターネット情報が入るようになった事
支援金	生活支援	社会福祉法人に発展解消
支援金	配食、訪問	震災により活動拠点の破損、会員の高齢化、主力会員の死亡
支援金	精神保健	後継者不在
支援金	障害児・家族支援	子供・家族の状況がステップアップした
リサイクルPC	パソコン教室	財政難などからNPO法人を解散し任意団体となり、一部活動を継続
リサイクルPC	パソコン教室	メンバーの高齢化に伴い活動が継続できなくなった
リサイクルPC	要約筆記	高齢化や親の介護、PCの知識豊かな人材がいなくなった

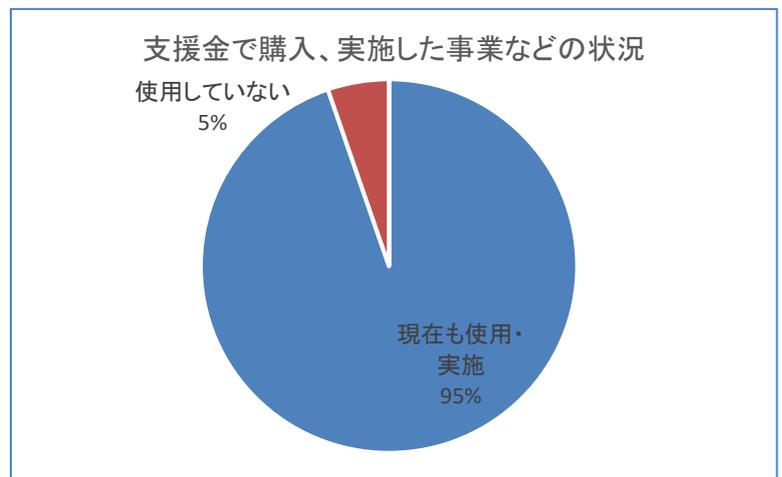
【支援金部門】 支援金で購入、実施した事業などの状況

回答	件数
現在も使用・実施	89
使用していない	13
記入なし	22



【東日本大震災復興支援部門】 支援金で購入、実施した事業などの状況

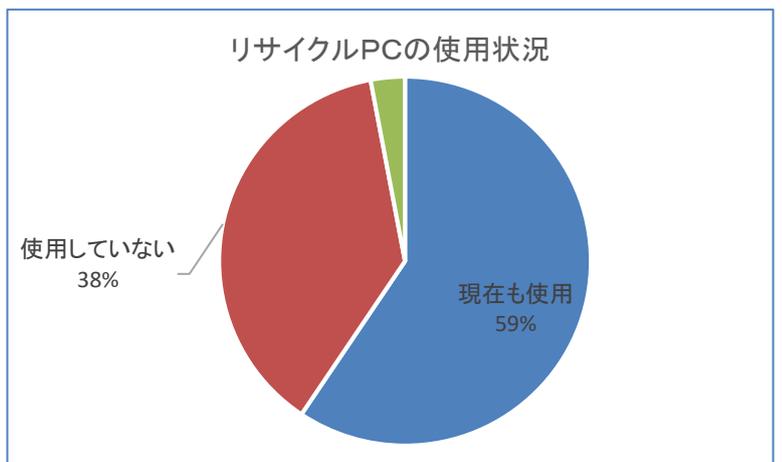
回答	件数
現在も使用・実施	18
使用していない	1
記入なし	0



【リサイクルPC部門】 リサイクルPCの使用状況

回答	件数
現在も使用	60
使用していない	38
記入なし	3

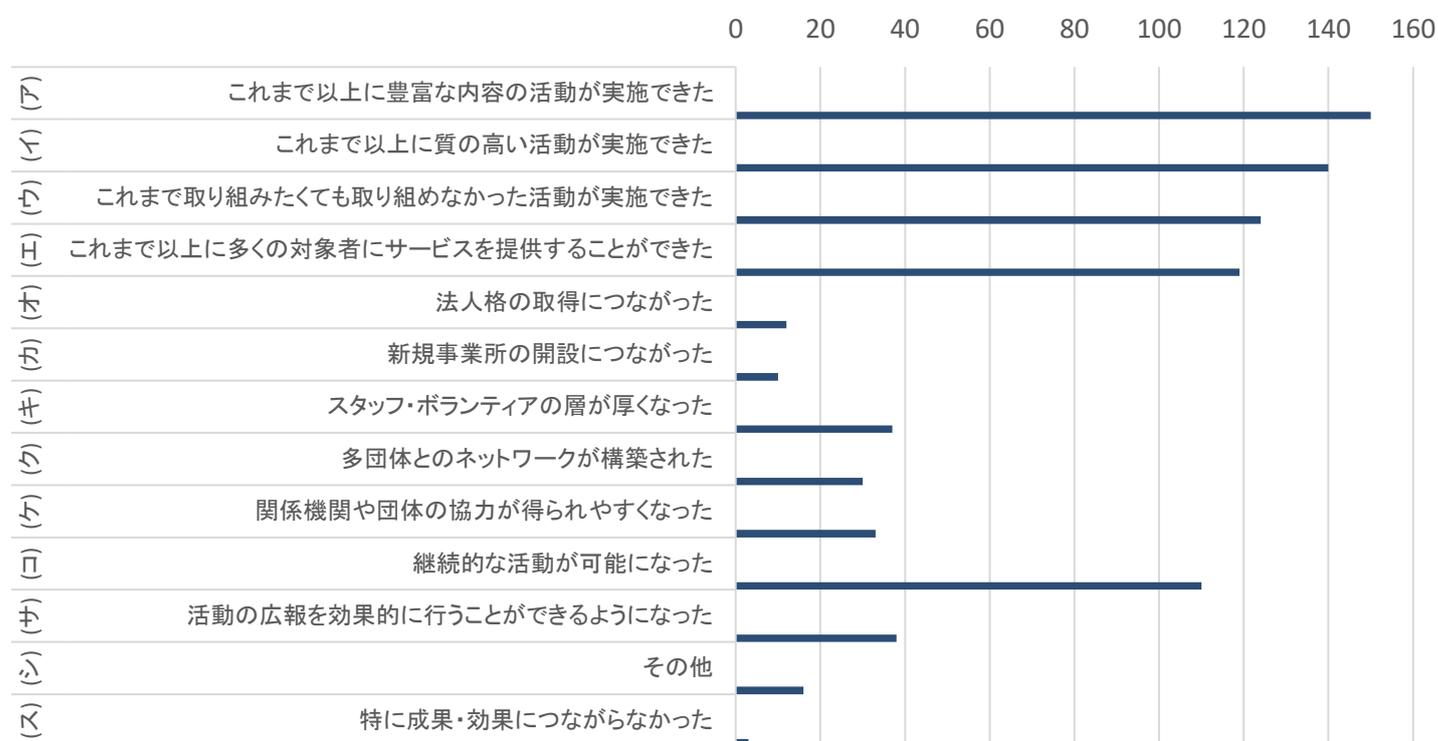
使用していない理由
 故障15、役目を終えた8、使いづらい2
 その他
 ・サポート終了
 ・最新のアプリに対応できなくなった
 ・バッテリー受電できなくなった、など



問1-1 わかば基金を受けて活動を実施したことにより、貴団体にとってどのような成果や効果が得られたと思いますか。(複数回答可)

選択肢	回答数
(ア) これまで以上に豊富な内容の活動が実施できた	150
(イ) これまで以上に質の高い活動が実施できた	140
(ウ) これまで取り組みたくても取り組めなかった活動が実施できた	124
(エ) これまで以上に多くの対象者にサービスを提供することができた	119
(オ) 法人格の取得につながった	12
(カ) 新規事業所の開設につながった	10
(キ) スタッフ・ボランティアの層が厚くなった	37
(ク) 多団体とのネットワークが構築された	30
(ケ) 関係機関や団体の協力が得られやすくなった	33
(コ) 継続的な活動が可能になった	110
(サ) 活動の広報を効果的に行うことができるようになった	38
(シ) その他	16
(ス) 特に成果・効果につながらなかった	3

わかば基金を受けて活動を実施したことにより、貴団体にとってどのような成果や効果が得られたと思いますか(複数回答可)



[問1-2] 問1-1で、(ア)から(シ)に✓を付けられた団体にうかがいます。成果や効果について、具体的にお教えください。(自由記述) ※一部紹介

活動内容	成果や効果
訪問レクリエーション	十分な資金もなく作品作りにお金をかけることはできませんでしたが、「わかば基金」により次々に代表作を生み出しすっかり自信をつけて国内のみならず海外公演（ニュージーランド、パキスタン、トルコ、ルーマニア、リトアニア）をスタートすることができ今年で17回目になります。
重症心身障害児者支援	医療的ケアのある重症心身障害児が外出することができ、親だけでなくスタッフとの関係や友達との関係も持てました、また、その間、親も少しの間でも自由な時間を過ごすことが出来ました。地域の方々には重症心身障害児であっても地域の中で皆と遊ぶことが出来たり、外出が出来ることを示すことが出来ました。
就労支援	PCの数が増えたことにより、ボランティアの負担が軽くなり、協力が得やすくなった。ボランティアの交代も楽になり、人数の確保ができた。「楽しむPC教室」以外に「就労の為にPC教室」も新たに開設できた。
生活支援	地域の福祉資源を掲載した地域マップを作成した。リーフレットを見たほかの団体のの方が訪れ活動内容について研修され、結果他の場所でも新しい活動が芽生えただけでなく私たちも刺激を受け活動見直しの機会にもなりました。
就労支援	工具を追加で20セット用意する事が出来たの結果、地元福祉施設の利用者さん以外にも地域大手企業が設立した特例子会社とも連携出来る様になり、スポーツ大会の記念品等を提供する事が出来ました。
録音図書製作	今まで出来なかったテープからCDへの移行が出来た。
DV被害女性支援	ロックミシンと業務用直線ミシンによって、ガーゼ数枚重ねがきちんと縫製でき、作業者のモチベーションが上がった。家庭用ミシンではできなかった縁かがりができ、参加者が自在にデザインした布ナプキンづくりができ、楽しんで縫製に挑戦できた。本格的なミシンがあることが勧誘の売りになった。
障害者の生活支援	NHKで放送されたことで広く社会に知られ、県内ばかりでなく県外からも訪問や問い合わせがありました。当事者の会と連携してセミナーを開催することができました。
就労支援	粉碎機を購入できたことで、これまで堆肥が完成するまでに必要だった期間（最低1年）が大幅に短縮されて半年程度になり、年間5トン程度だった生産量を10トン程度にまで増やすことが出来ました。また、利用者が参加できる作業として「粉碎」を行なうことが出来、機械を使用する技能の習得という面でも成果が出ています。他にも、申請の時点では想定していなかった、収穫終了後のナスや枝豆などの処分にも利用することが出来、撤去作業の負担軽減になりました。
多文化共生	一番大きな効果は、録音が、好きな時に、好きな場所で、できることです。それまでは、当団体は障害者のみを対象とした事業ではないため、録音室の使用予約を受け付けてもらえません。そのため、行っても、使用中であれば使えません。録音の日程が立てられず、制作が進みませんでした。録音器を購入することができたので、通常活動の会場（会議室ではありますが）で録音することができ、吹込み者にも録音器の操作者にも負担が少なくなり、制作が一気にすすみました。
重症心身障害児者支援	重症心身障がい児（重症児）・者に入浴サービスを行っている事業所です。ご自宅における入浴介護は障がい者の親御さんにとって、負担となります。入浴は子どもたちにとっても筋肉の緊張がほぐれ、リラックスできます。それで、大変喜ばれているサービスです。利用者の親御さんからの感想の抜粋です。「放デイの利用により、息子が親から離れて一人でいる時間を持つようになり、親が知らない『息子の時間』というのは初めてのこと。スタッフに連れられて一番町まで出かけたこともあり、驚きつつとても嬉しく思った。学校を卒業してから大丈夫だろうと安心した。家庭の風呂で一人で抱えながら洗うと限界がある。放デイでは、普段手が届かないところまで洗ってもらえる。そもそも預かってくれるところもなかった頃から見ると、お風呂にも入れてもらえ素晴らしい！」。この入浴サービスを行うにあたってストレッチャーの使用は欠かせません。ストレッチャーがなければ、とても支援できません。たいへん助かっています！

活動内容	成果や効果
被災地再生	災害公営住宅入居者の孤独化を防ぐため、住民交流事業を行っています。従来、健康や交通安全等の講話、お茶飲み会、ピンゴゲームなどを行ってきましたが、わかば基金の援助で購入した軽スポーツ用品を使用して無理のない運動を取り入れたことにより、新たな楽しみが増え参加者も多く大変喜ばれています。
障害当事者による居場所	以前は利用者さんたちにパソコンに触れる機会を提供することができませんでしたでしたが、助成を受けた後は、タイピング練習を日課とする人、スケジュール管理の表を作成する人等々利用者さんたちにそれぞれの必要を取り入れることができ以前には見られなかった意欲が見られ生き生きとした毎日を送っております。
就労支援	支援していただいたパソコンを活用して施設内でパソコン教室を行うことが出来ました。通所する利用者にも募集を呼びかけ、予想以上の方の参加希望があり、改めて利用者さんのパソコン技能を身に着けたいというニーズを感じました。学ぶことへの意欲を感じる事が出来大変うれしく思いました。
要約筆記	字幕付与作業をする際、わかば基金のパソコンを活用しています。邦画に字幕を付与して上映会をすることで、字幕を必要とする人がいるという啓発活動を行っています。これまで、邦画に字幕が必要だと知らなかった人にも知ってもらう機会が増えて、字幕の必要性の認知度も少しずつではありますが、上がったと思っています。
録音図書製作	デジタイズ制作にはかなりのパソコン技術が必要とするためボランティアが少なく、講習会を開くにもPCが必要でしたので、現在までに数回、頂いたPCを使用して講習会を開き、数人のボランティアを養成、集めることが出来た。
ひきこもり当事者支援	障がいや病気・ひきこもりの方々の活動場所を定期開催する傍ら、まだこうした場所へ参加することができない方々へアウトリーチをすることも欠かすことのできない支援活動であることと取り組み続けておりました。バイクを購入でき、駐車スペースを全く気にすることもなく訪問させていただけます。道路渋滞などの影響もそれほど受けることなく、時間も効率的に使えるようになったと感じております。何より『バイクだから、直ぐに行けますよ』と気軽に発することができるようになったのは、支援の軽快さを課題とする福祉には最適だったと感謝しております。
就労支援	利用者に商品ラベルのコンセプトを伝えるのみでラベル作成を任せたとこ、必要なパーツ（イラスト、フォントなど）をインターネットサイトで検索、ダウンロードして取り組んでいました。自分のアイデアを自分でラベルに表現し、それが商品の顔となることが自信につながっている様子です。また、商品の納品記録を入力する作業も行い、表作成・修正やデータ入力など簡単な処理ではありますが、PC操作ができる楽しさを覚えた様子もあります。休憩時間は自由に利用できるようにし、各々譲り合いながら利用しています。
点訳	絶対的にパソコンが不足していたために出来なかったことが出来るようになった。本の点訳版にも取り組めるようになった。
不登校児支援	不登校の子達が大好きなゲームを支援に取り入れ、ゲーム会社を巻き込み、ゲーム開発を通じて、子供達の支援を行ってきました。提供いただいたパソコンで子供達がゲームを開発していたのですが、参加者の大半は不登校だったのですが、約その8割の子が学校に通えるようになりました。学校に通えることを目的にしていたわけではないのですが、ゲーム開発を通じて、自分にもできるという自信がついたこと、また、仲間と一緒に何かに取り組む楽しさを学び、私たちの想像を超える子供達の変化がありました。
情報保障	テキスト訳の体験講座において、参加者にパソコンを使ってもらい、実際に体験してもらうことができた。会のメンバーを新規に募集するための紹介講座や「目の福祉機器展」において、パソコンを使っの効果的なプレゼンができた。

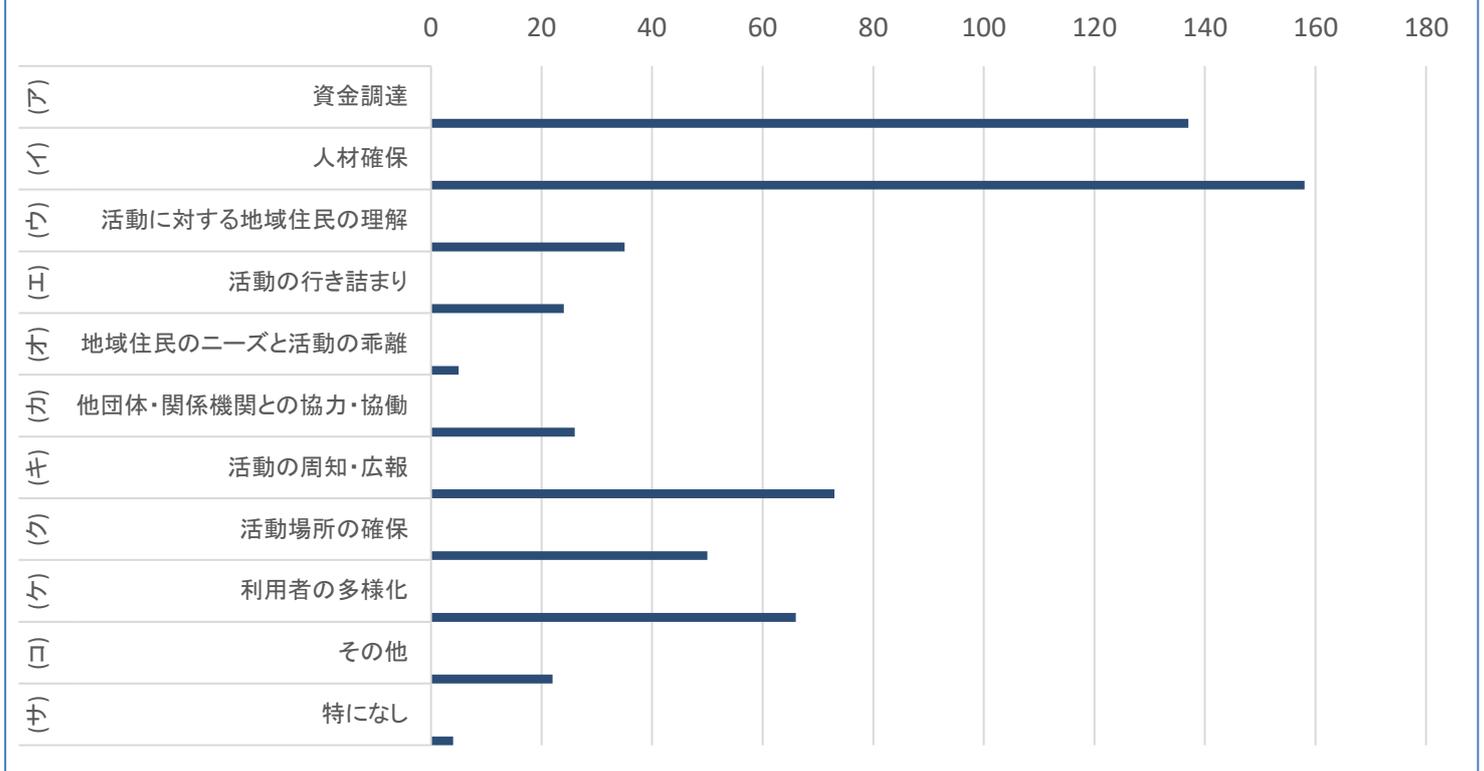
[問1-3] 問1-1で、(ス)に✓を付けられた団体にうかがいます。成果・効果が得られなかったのはなぜでしょうか。具体的にお教えてください。(自由記述) ※一部紹介

活動内容	理由
PC教室	年一回内容の説明がわかりにくい
PC教室	高齢者に使っていたが、立ち上がりその他が遅く、自分で購入した。
PC教室	一時的にパソコンの入力作業ができるようになって、身近にアドバイスをする人がいない場合はそれ以上の成果につながらなかった。

[問2-1] 皆さまがこれまでの活動を行ってきた中で、課題となったことはどんなことでしょうか。該当するものに✓を付けてください。（複数回答可）

選択肢	回答数
(ア) 資金調達	137
(イ) 人材確保	158
(ウ) 活動に対する地域住民の理解	35
(エ) 活動の行き詰まり	24
(オ) 地域住民のニーズと活動の乖離	5
(カ) 他団体・関係機関との協力・協働	26
(キ) 活動の周知・広報	73
(ク) 活動場所の確保	50
(ケ) 利用者の多様化	66
(コ) その他	22
(サ) 特になし	4

皆さまがこれまでの活動を行ってきた中で、課題となったことはどんなことでしょうか？（複数回答可）



[問2-2] [問2-1]で挙げていただいた課題について、解消するために皆さまが行った取り組みや工夫、気をつけたことなどありましたら具体的にお教えてください。(自由記述) ※一部紹介

(ア) 資金調達

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
重症心身障害児者の地域生活支援	無認可時代の資金用達はバザーや寄付金。研修にも取り組み親は常にバザーをしていました。法人になって事業にも取り組み、だんだんバザーの必要も少なくなってきました。
高齢者・障害者の日用品製作	当初は色々な助成金への応募を行い、数件の採択により恩恵を受けたが、殆どが使用条件が厳しく設けられていることで、希望する効果が得られませんでした。それで自助努力として、各種イベント開催時に会員製作の「作品展示販売」を行って頑張っています。
在宅障害者の生活支援	銀行からの融資など。
就労支援	事業所を花の鑑賞スポットにしようと20年以上頑張っており、やっと秋にはコスモスを中心とした花が一面に咲いて、お客様にも来てもらえるようになりました。自から集客できることで安定した売り上げが可能になり、様々な障がいを持った人達が多様に活躍できる場になると信じて努力しています。
就労支援	法人事業が障害者就労継続支援B型の事業を行っているため、どうしても作業種類の多様化に努めなければならず、どうしてもその際、機器購入のための資金、また利用者送迎の為に車両の充実のための資金が必要となってくる。そのため各種団体に対し、見合った助成を申請し一部受理され購入に至っている。
不登校児の居場所、学習支援	講演会などのイベントを行い、企業に協賛を募る。子どもたちの利用料を無料にするために、同伴の保護者や支援者に寄付をお願いする。小さなフリマを繰り返しながら、資金を調達する。
重症心身障害児者の地域生活支援	資金調達面は、無駄な部分がでないよう、節約をしながら、経費節減に努めています。また、わかば基金のように支援金や助成金でバックアップしてくださる団体や法人を探しています。実際、申請を出しても支援していただけるのは、件数の関係で10件申請を出して1件くらいです。それでも、助成団体の助成額が大きいものもあり、かなり助かっています。さらに、寄付のお願いをしたりクラウドファンディングの活用なども大変、プラスになっています。
フードバンク	助成金申請、プロジェクト型クラウドファンディングなどを行っているが、事務所経費や賃金につかえるものがほとんどないため困難な状況にあります。

(イ) 人材確保

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
重症心身障害児者の地域生活支援	人材の確保には現在も困っています。地域の方々に私たちの活動を理解していただくための「おまつり」や「もちつき」等に参加をしていただくために広報を出したりしています。
高齢者・障害者の日用品製作	人材確保；会員年齢が比較的高齢(平均70歳代)のため、健康面から退会せざるを得なくなるケースが出てくることを考慮して、普段から新規入会者の募集を継続してきています。年に一回、3月に「日曜大工ボランティア入門講座」を自前で開催し新規入会者を獲得する活動を行っています。
障害のある子どもの音楽活動	定期的なコンサート活動を通して地域の学校や一般の方々と共に活動する時を持ってきました。そのことによってボランティアを確保したり、現在指導に当たっている先生は10年以上前に共にコンサートをした中学校の音楽の先生である。
居場所	高齢者グループホーム、障がい者グループホームを運営するに至りましたが、中心メンバーの高齢化や専門職がいなかったことなどで人材確保が大変でした。地域での活動が少しずつ認められハローワーク、人材センターその他に求人したり、紹介していただいたりなどで都度何とか切り抜けてきました。
要約筆記	要約筆記奉仕員養成講座が市町村で行われなくなって、会員が増えなくなった。サークルでは、「聞こえのサポーター養成講座」を開催。「サポーター講座」では、聴覚障害を理解し、地域で実践してもらうことが目的なので、入会までには至らない。近年は「要約筆記の体験講座」も開催。これは、県や中核市で開催している要約筆記養成講座に繋ぐためのもの。
在宅障害者の生活支援	福利厚生・働き方についての検討と改善。

(イ) 人材確保

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
視覚障害者へのパソコンサポート	ここ数年、会を継続運営していくうえで人材確保が難しくなって来ています。活動日がウイークデイということもあり、若い方の参加が期待できないので、シルバー人材センターに退職後間もない方たちの紹介をお願いしています。結果としては60歳代前半のかたたちを紹介していただいているので、活動開始後10年くらいの継続活動が見込めますので、平均年齢は高くなりますが安定して活動はできると考えています。最近ではパソコンに限らず、ツールも多様化し、サポートを必要とする視覚障害者の年齢層も幅広くなり、すべてが多様化してきております。スマートフォン（視覚障害者の間ではiPhone iPadが主流です）などが主流になってきそうな時代の流れの中で、パソコンサポートからその他の視覚障害者向けツールのサポートに切り替えていく必要にせまられ、また違った意味での人材不足になるという循環を繰り返すことになりつつあります。
就労支援	ハローワークへの求人だけでなく、地域の自治会などに呼び掛けて、地域の方でお手伝いできる人を募った。
就労支援	焦って事業拡大を押し進めたりせず適切なサイズで事業を継続する事に留意しています。
点訳	他団体でも同様ですが、高齢化に加えて点訳についてハードルが高い印象があり、仲間の減少が悩みです。
就労支援	人材確保に関しては、5時間勤務のパートさんの雇用。地域のイベント・地方祭などに積極的に参加。また施設のある地区の水路掃除・草刈りなどに定期的に参加をし、地区の方々と顔見知りになり農作業でわからないことなどアドバイスをもらえるような関係になった。請け負っている。
子どもの居場所	活動スタッフは、子育て支援講習会（ファミサポ）を開催し、受講者から人材を発掘した。
就労支援	昨今、人材確保はNPO法人だけではなく、中小企業の課題である事は知っているが、福祉サービスの利用ご希望者は増えているので支援員が不足する事は大きな問題である。支援員をハローワークを通して募集を行ってもここ3年は応募者が居ない。事務員を募集すると何人か応募者がいる。
高齢者や障害者の居場所	人材確保は、すぐに解決できる問題ではありませんが、地道な種まきが重要と感じ小さな試みを継続しています、試行錯誤です。具体的には江戸川区の市民大学「江戸川総合人生大学」などに依頼し受講生に活動報告をとおして活動への参加やボランティアを働きかけています。
重症心身障害児者の地域生活支援	人材の確保は現在も苦心をしています。利用者さんが増えてそれに伴って職員も増やしていかなければなりません。ところが「人手不足」の時代であり、ハローワークやチラシで募集をかけてもなかなか集めることができませんでした。重度重複障害児者に喜んでもらえるサービスを丁寧に行っていく、これを続けていく中で評判となり、口コミで職員が少しずつ増えていきました。利用者の多様化については、本法人は当初から「重度重複障害児者」に限定をしてみましたので想定と大きく変わることはありませんでしたが、より重度化が見られます。この点については、看護師を増員したり、職員の研修をしたりして対応をしています。
被災地復興	町の広報誌に募集掲載をしているが集まらない。事業実績と口コミで会員確保をしている。
子育て支援	新しい人材の確保については、力のある即戦力になってもらえそうな人を発掘しようと地道に時間をかけて捜しました。この人という人にピンポイントに声をかけ、積極的にかつ丁寧に受け入れ、スタッフになっていただいています。
重症心身障害児者の地域生活支援	資格がある必要人材がもっともっと求められています。様々なところに求人広告を載せたり、募集をかけたりしています。当法人サイトを見て求人に関心を持たせてくださる方もいます。まだまだ人材は必要であり、十分に賄われているわけではありません。重症児・者を児童発達支援や放課後等デイサービス、生活介護事業を展開する小さな事業所では、なかなか、人材確保が難しい状況です。特に優秀・有用な人材ほど、もっと条件の良いところに行ってしまいます。この点でも小さな事業所ならではの良い点をアピールしつつ、人材確保に努めていきたいと思っております。

(ウ) 活動に対する地域住民の理解

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
就労支援	グループを立ち上げたときには、まだ精神障害者は福祉の対象とされていない時だった。そこで、まず他団体・関係機関との協力・協働に努めた。シルバー人材センター、知的障害者団体との協力・協働し、それぞれの施設開設を市・市議会に働きかけ、結果3つの団体が協働しながら活動する場所を市の建物に構えることができた。
在宅介護支援	3度の立退きを経て、現在に至る。良い時も、良くない時も、淡々と地域のニーズに寄り添い、活動を継続した。
就労支援	交流のある個人や大学生などに福祉の重要性や現在の活動に興味をもって頂けるような話をしている。某大学で184名の学生に活動報告とメンバーたちの今考えていることを話す機会があり大変好評を得た。地道な活動を続けることで素晴らしい人との出会いがあると思っている。
高齢者・障害者の日用品製作	社会福祉協議会に所属するグループであるので、協議会活動に連携したイベント並びに市民文化祭や、自治会主催の「親子木工教室」、学校主催の「木工教室クラブ」及び市外の関連団体からイベントへの参加要請を受けての出前「工作教室」支援参加を通してグループの知名度アップに努力しています。現在は、高齢者・障がい者の方から口コミで困り事解消の依頼が増えてきています。
就労支援	精神保健福祉の分野は、障害の理解にはまだ困難を感じることもある。地域住民への啓もう活動として平成12年から「当たり前を暮らすこと」と題して講演や啓発劇を200人から300人規模のイベントを開催しました。このイベントを拡大発展させるため、平成28年度から町の自立支援協議会や社協、福祉施設と連携したイベントを企画しています。
生活援助	地域住民の理解について、理屈では理解を得るのは難しい。NPOの行動を継続することで、徐々に理解を深めるようにしている。

(エ) 活動の行き詰まり

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
録音図書製作	朗読ボランティアの養成講座が開催され、私たちボランティアが講師としてお手伝いしています、その場で勧誘を行いますが、20人の参加者中4～5人の人が活動に参加してくれます。とりあえず、参加できる時やってみませんかと誘っています。会員の高齢化で活動の継続が課題です。著作権が難しくなり、興味をひくものが読めなかったりしていますが、地域の情報誌で探したり自分の旅行記や日常のことを考えたり工夫して記事を作っています。

(オ) 地域住民のニーズと活動の乖離

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
パソコン講座	高齢者のパソコン講座の活動を行うにあたり、ネットやチラシなどで広報を行っていますが、広報の手段として実際に高齢者の集まる場所や集会所などに出向いて話をするようにしています。時間はかかってしまい、効率があまりよくないと感じることもありますが、話をして何を必要としているのかが見えてきて活動の内容やヒントが沢山出てきます。また、単発の講座ではなく、終わってからのイベントの継続の参加者へのフォローが大切なことだと感じています。

(カ) 他団体・関係機関との協力・協働

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
就労支援	他団体との連携では事団体がイニチアチブを取る事に拘らず多くの場合協役としてサポートする事を心掛けています。自分達の活動を知ってもらいたい、理解してほしいの気持ちから先に立つと「自分が自分が」の態度が強くなってしまいせっかくの連携機会を失ってしまう事が無い様に注意しています。
フードバンク	自治体内に先例がないため理解を得るのに時間がかかったり「フードバンク」の認知度が低く、そこから説明をしなければならぬので協力協同のハードルが一つ多いので、できるだけメディアで発信してもらえようプレスリリースを出している。

(キ) 活動の周知・広報

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
録音図書製作	活動は視覚障がい者のための音訳活動であり、マイクを通して「広報」「書籍」などを録音する作業です。人前でパフォーマンスをするわけでもなく地味な活動です。一般の人に周知することは難しく、活動をしていないようにさえ思われます。視覚障がい者のために活動するわけですから目立たなくともいいと思っています。しかし一般の人たちにもこのような活動があることを知っていただきたいと思っています。そしてボランティアの輪が広がればいいと思っています。毎年一回視覚障がい者の方たちと楽しむジョイントコンサートを企画してきました（今年で11回目）。これは市民を巻き込んだ交流の場となっています。録音活動からは離れますが、一緒に活動することで「相手を思いやる」「優しいぬくもりのある声」を提供できる録音活動にも役立っているのではないかと思います。
就労支援	行政はフォーマルな福祉を取り上げやすい。インフォーマルな福祉を『見えるか』することで、本当の実態が見えるはずだが、行政の息がかかったところしか広報にとりあげない。これは、ある面、後退ともいえる。
生活困窮者支援	インターネット上だけではなくイベントへの参加や取材対応などを行うことで、事業のPRを行っています。その効果もあってか、市内・市外を問わずたくさんの方々から食品や物品の寄贈をいただいております。
録音図書製作	活動の周知・広報、地元コミュニティFMで受け持っている番組内で活動を紹介している。
子育て支援	事業を回すだけで精一杯で、周知・広報が手薄になり、新規の利用者が増えにくい・・・一度参加利用していただければ、必ずリピーターになっていただけるという自負はありますが、新規の層の拡大をしていくために、工夫・努力したことは①事業ごとのチラシの作成②ホームページ・FB・ブログ等パソコン関係・ネット専任の担当者を置き、こまめに更新していく③行政関係者と子育て関係のNPO法人の定期的な連絡会を開催していただくよう要望し、年に3～4回のミーティングが実現。顔の見える関係になりながら、お互いの事業の理解を深め、広報していただけるようになる。④まずは足元を固める・・・スタッフのミーティングをこまめに持つようにし、その時々で、問題点や課題等を話し合い、情報を共有するとともに、解決策も話し合い相談しあうという時間を意識して取るようにした。
要約筆記	町の金婚式ではパソコン要約筆記で情報保障を実施しました。聴覚障害者だけでなく、高齢者にも、スクリーンに文字を映し出す要約筆記は喜ばれています。
障害当事者の居場所	Facebookページ、HPで発信しておりますが、それがどの程度効果があるか、或いは無いのかを把握できてないという状況です。
子どもの学習支援	「無料塾」の必要性、子どもへの効果などについての周知を図り、全国各地に無料塾が広がることを目指しています。そのために、取り組みをまとめ出版する作業を進めています。
要約筆記	聞こえないイコール手話ではないことを知ってほしい。手話のわからない聞こえの不自由な人はたくさんいます。字幕やテロップなど文字情報は、多くなっていますが、テレビ等でも、要約筆記があることを取り上げてほしいです。

(ク) 活動場所の確保

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
点訳	公的施設の利用者の増加に伴って、当会のような40人を超えるグループ員が一同に集合できる会場の確保は、困難になっており、会場担当班で対応している。全体集会で討議できることで、短期間での集中作業、多種イベント参加、新技術の伝達の円滑運営に繋がっており、スケールメリットを生かせる方向性を今後も保ちたい。
就労支援	利用者と一緒に加工品の販路拡大に努めています。加工品として①食道カレー（市役所と共同開発）、②ゆずこしょう、③一味唐辛子、④一味を使った「焼き肉のタレ」、⑤こんにゃくを開発した。
認知症予防プログラムの普及	今年度から会場が有料になったが、市高齢福祉課に市後援の申請を提出して認証され一部減免になった。活動報告の提出義務があるため、日報を届けることで内容を知ってもらい、一言二言話をして市とのつながりの糸口を探っている。
障害のある子どもの社会参加	いつも同じ場所・同じ環境が望ましいが、一般の団体と同じ条件で公共施設を借用することも考えると、一定でないのは仕方がない。現時点ではほぼ同じ場所を借りているが、もし変更になる場合、それぞれの子供の状況に応じ前もって調べておくなど工夫や配慮をしている。将来社会への自立を考え違った環境への適応を考えたい場合良い機会ともいえる。

(ケ) 利用者の多様化

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
重症心身障害児者の地域生活支援	本法人は当初から「重度重複障害児者」に限定をしてきましたので想定と大きく変わることはありませんでしたが、より重度化が見られます。この点については、看護師を増員したり、職員の研修をしたりして対応をしています。
就労支援	利用者の高齢化が進んできています。また、障がい種別も精神が多くを占めるため、特に精神の利用者の高齢化に対応していかなければならない課題が大きさを増しています。
就労支援	福祉業界における職員待遇がまだまだ低い位置にあるため幅広く人材を集めることは難しく、有資格者の確保もままならない状態です。未経験者を採用した場合も、障がいにどのように対応したらよいか戸惑いストレスを感じて現場を去ることも多々あります。職員処遇改善計画をよりよいものに修正するなどできることから職員待遇の向上を図っていますが、優秀な人材確保に至るまでにはまだまだ時間がかかると感じています。

(コ) その他

活動内容	課題点、解決に向けた取り組みなど
就労支援	後継者
障害のある子どもの社会参加	支援クラスのほか支援学校の子の受け入れにより、出来ることの差が生じ、それを感じさせないように、自信につながるような配慮。地域における会の役割、存在の意味。
障害のある子どもの社会参加	会立ち上げ段階で、どの親も活動を継続すると思っていた、実際は子供の成長に伴い参加する形が変わったり、機会が減ったり、子供の意思で退会という選択肢も出てくるようになった。親としては、今後問題が出たとき話せる場所や相手が欲しい、進学や就労の情報も欲しいなどの理由でつながりを断ちたくないのが本音で、しかし親の意見のみで本人の気持ちを無視してところで無理やり療育に連れてきてても良い成果は得られない。活動は子供の成長過程という位置づけになりつつある。地域に住む支援を要する子供たちと親御さんを先輩ママとしてサポートしていこうと考えている。
フードバンク	企業の理解協力＝企業とのつながりをつくるために地銀に口座を開設したり、地元商工会議所に入会したりしたばかりであるが、まだ成果はでていません。
被災地復興	継続する活動の基本は「現地ニーズ」に従い、押しつけは行わないこととしており、他団体様の活動が収束するにつれ、当団体へのニーズは増えております。地域の方々が少しずつ地域の活動に参加されるようにはなっておりますが、まだまだ必要とされるニーズは多々あり、引き続き活動の必要性を感じております。

【問3-1】 「わかば基金」に期待することや要望などございましたらお教えてください。（自由記述）

活動内容	期待、要望など
就労支援	私たちが「わかば基金」によって活動を広げたように、活動の資金不足のため力を発揮できないでいるグループの後押しをお願いいたします。
在宅高齢者支援	自立して地味な活動を続けている「ボランティア団体」には若者育成の視点からも基金の再交付があっても良いのでは。
外国籍母子支援	当時は小さなグループでありながら、支援して下さり感謝でした。社会の変化の中で取り残されるニーズは常にあると思いますが、活動の規模や長さではなく内容で評価することを続けてほしいと思います。
高齢者支援	まだ、介護保険事業が始まる前。住民互助型の在宅福祉サービス団体として活動していた時、お金も全くない時にご支援いただきました。どれだけ、助けていただけたか知りません。その後、法人格を取得し、制度にも携わるようになり、会計状況も変化してきました。けれども、団体が大きくなったらなくて、事業の継続のための人件費や事業費などが必要で、新たな挑戦や、実験をしようとしても、難しいのが現状です。「わかば基金」さんには、ぜひ、夢やチャレンジに対しても、耳を傾けていただけたらと願っています。
訪問レクリエーション	近年は高齢者福祉に関する活動団体が取り上げられ易いように感じているが、地域文化芸術の発信等を行う団体も大切に支援してほしい。
障害者家族会	18年前の楽器は買い替えを要する時期に来ている。当時の子供たちは成長して大人になり音楽への取り組み姿勢も変化し、新しい楽器や楽曲への取り組みも進めている。長年活動を継続している、すでに支援された団体に対するステップアップの助成があればと思う。助成金は新規性が大きく評価されるが、新しい発想とエネルギーを投入しながら長い間の自助グループの活動の継続は大人になった障がい者の趣味サークル活動としての意味があると考えます。継続支援の形もありでは・・・と思うところです。このようなアンケートを通して継続活動している団体のPRをしていただけたらうれしい。
配食	始めたばかりのボランティア団体ほど金銭の援助を必要とします。会員の寄付で活動資金を作りましたが、高額な機器の購入は不可能です。高齢社会に向かいこれからが本番です、小さな灯を応援してください。
点訳	NHKでなくてはできない特徴ある基金として、さらなる充実を期待しております。
発達障害児支援	申請後に、職員さんからかけていただいた「頑張っていますね」だったかの言葉で長く不安な時期も支えられました。取材に見え、地方版のニュースで私達の団体を紹介頂きました。市外にまでNHKのニュースになったことは私達に大きな自信も頂きました。
録音図書製作	「わかば基金」は大変助かりました。機具購入のために助成金情報に目を光らせたのですが、条件が厳しすぎて自己資金を提出するのに苦労しました。ボランティア活動は本来の活動が忙しく資金を稼ぐことなどはできないからです。必要経費の3/2もしくは2/1しか助成できないとなると申請の時点で二の足を踏みます。条件の無い「わかば基金」は有難いと思いました。感謝しています。
フリースクール	団体の活動を継続させるために、財政の安定化とスタッフの人員確保はとても重要です。助成金で人件費や組織基盤強化の部分をサポートして頂けると、団体の財政面で助かります。
要約筆記	要約筆記は何といっても機材が重要。サークル内の経費では賅えませんが、このような支援を頂き成り立っているといっても過言ではありません。他にも支援を必要とする団体があるはずで、これからもご支援をお願いいたします。
就労支援	採択をされた事由を示すことで、もっとこの基金で社会デザインできることがあるように感じております。
就労支援	私たちがご支援を頂い処より社会はより多様性を尊重する社会に進化しています。支援を必要とする取組も多様化していると思います。放送機関を母体とする多様で豊富な情報を元に提案型の支援を提供して頂けたら喜ぶ団体は多いかと思ひます。多くの団体では計画立案がハードルが高くて申請に至らない事が多いかと思ひます。この様な事業を自分達に地域で実行したい団体を募集と言う形が出来ないかなと思ひます。限られた人員で綿密な事業計画を立てる事は難しいと感じます。今後とも必要としている人、団体に支援をよろしくお願ひします。

活動内容	期待、要望など
要約筆記	パソコンが思いのほか早く壊れてしまった（使えた期間は2～3年だったと思う）、長く使える物が欲しい。
障害当事者スポーツ	高価な機材を購入できて大変感謝しております。要望としましては、機材は何年と使用していると買い替えが必要になってくる場合があるかと思えます。その時にわかば基金さまに再エントリーできたら良いかなと思っています。
配食	東日本大震災から8年の月日が経とうとしています。わかば基金から頂いた助成金は、私たちの活動に活力をよみがえらせてくださり、その後の活動継続の一助になっておりました。現在、私たちを取り巻く社会環境は、かつてない超高齢化時代を迎え、活動継続の必要性を現場でひしひしと肌を感じる毎日です。継続のためには、担い手不足・資金不足を課題としていますが、いずれも現在の社会情勢の中、なかなか解決にいたっておりません。是非ともご理解いただきご支援の継続をお願いいたします。
不登校児支援	パソコンをいただき、とても助かっていますが、さすがに、使用頻度が高いと消耗も激しく、初期化したら、ワードとエクセルが消えてしまったり、検索エンジンが異常に遅くなってしまったりと、困っています。この先、そのパソコンを買い替える資金がありません。リサイクルパソコンをいただいているのに、これ以上の贅沢は申し訳ないと思いつつ、もらったあとも使い続けられるように、必要に応じて新しいものと交換など、最低限の動作が保障されていると、ありがたいです。毎日、1年間パソコンだけをしに通ってきた中学生は、この秋から学校に行かれるようになりました。そういう子どもたちのために、自宅で一人パソコンに向かうのではなく、居場所で他の人がいる中で、関わらなくても良いから、毎日来るきっかけとしても、利用価値は大きいです。その結果、元気になり、社会性も身につきました。ありがとうございます。
就労支援	地域に密着して、小さくて、それでもきりりとする活動をしている団体に是非手をさしのべていただきたい。報道関係者の強みは、真に理念を吟味する力をおもちでいると考えます。その強みを生かして、支援先をチョイスしていただきたいと考えています。
高齢者支援	ボランティアスタッフに手当を支給できるような基金を望んでいます。
録音図書製作	NPO団体や多人数の団体では資金調達も可能と思うが、私たちのような小さな団体では助成金を受けるチャンスも少なく苦労しています。身についた知識を活動に結ぶ付けられるような支援を幅広くお願いしたいと思えます。
重症心身障害児者支援	小さいいわば市民団体のようなところに助成をいただいたこととても感謝いたします。
就労支援	私たち零細な事業者にとりまして、誠に有難い制度です。なかなか応募者数が多く、一度採択された事業者にはなかなか2回目と言うのは、難しいのかと想像しての事ですが、同じような懸念から申請していない事業所が多くあるのではないかと想像します。出来れば、一度採択されれば、最低何年間か申請出来ない。その後は、全く他の応募者と同じスタートラインに立つという事になれば、再度、応募したいと考えます。・厚かましいのですが、採択される事業者数を増やして頂きたいです。待ち望んでいる、事業者は多いと思えます。
就労支援	福祉施設が増えてきているのに対し、助成団体の助成額の枠が減少傾向を示しており、助成金での施設・備品等の整備が難しくなっており、助成制度の拡充をお願いしたい。
災害被災者支援	陽の当たらないところで活動を続ける団体や個人はその殆どが「自分のことより人の事」を信条にしており、活動には資金よりも心が大事だと思っているところが殆どです、ややもすると目立った活動もしていないのに、助成金や寄付を募るテクニックを身に付け、資金集めをしている団体も。わかば基金には今後も寄付先を見極めて頂ければ、黒子である私達の活動も報われます。
介護予防	オバサン達の活動で、どのくらいPCを使い熟せるか分からない状況のとき、2台のご支援を頂き、恐る恐る操作を始めた日があった事が夢のようで、今では毎日無くてはならないパートナーとなりました。これが自前で揃えたら誰がするの？どうしたらいいの？使えるか分からないのに買うの！となり、今の活動に繋がってなかったと思う。一歩を踏み出す大きな後押しとなった事に、感謝申し上げます。

活動内容	期待、要望など
不登校児、生活困窮者支援	私たちのような小さいNPO団体が何か新しいことを始める時、気持ちだけではどうにもならない場面が多いのですが、2016年の子ども食堂をはじめたい！という思いを、ちゃんと見てくださったおかげで、実際に立ち上げることができました。そして現在も継続することができています。最近、わたしたちの居場所（おやかカフェ、子ども食堂）につながったある親子は、行政のセーフティーネットからこぼれ落ち、社会福祉協議会でも対応が難しく、わたしたちのところにたどりついたようです。最終的な受け皿となる私たちの分野の活動は、様々なしほりがある行政からは支援していただけないことがあります。が、わたしたちのような団体が社会に必要なだと思ってくれたこと、心より感謝いたします。これからも思いのある市民団体に引き続きご支援くださいますようよろしくお願い致します。
DV被害者支援	「助成金ではありません支援です」というフレーズが本当にうれしかった。続けてください。
多文化共生	備品購入のための助成金が少ないので、ありがたいです。わかば基金は、知名度もあり、支援ただけて、ありがたかったです。
フリースクール	わかば基金で、当初の計画より幅広い年齢層の使用が出来る事など、多くのメリットがありました。社会では表面化されない、されにくい課題が多くあり、その課題に取り組む小さな団体があります。その小さな団体に活動応援して下さることを期待します。
パソコン操作サポート	最近タブレットなどの使い方のサポートも必要との声が上がっていますが、自前で用意するには自己負担が大きいので、中古でもタブレットの支援があると嬉しいです。
就労支援	当法人はNPO法人で貴基金に応募することが可能ですが、周囲には法人立ち上げの際に諸事情により合同会社などの法人格にしている福祉事業者もいらっしゃいます。福祉事業のみに取り組んでいらっしゃる法人でも申請が可能となれば、多くの事業者が応募の機会を得ることにつながり、福祉業界の底上げにもつながるのではないかと思います。
点訳	「リサイクルパソコン」であること。十分承知で利用させて頂いていますが、点字ソフトをインストールして、使用する時、六点入力が出来ない・出来ない。
地域生活支援	パソコンの寄付は、ニーズがたくさんあると思います。ほかにも、災害時、防災関係の補助が幅広く行われる事を願っています。
ひきこもり当事者支援	障がいの有無、就労の有無にかかわらず、生きづらさを抱えている若者も多く、そのような若者は自信のなさや経験の少なさから、自宅にひきこもったり、人との関わりや社会とのつながりを避ける傾向がある。制度と制度の狭間にいる若者が様々な形で社会参加できるよう、多様な機会やシステム作り。ひきこもっている若者が就労や社会復帰を目指す際、いわゆる空白の数年がネックになることが多い。地域の大人や企業が、そのような若者を温かく見守ったり、受け入れる企業を支援したり応援してほしい。（例えば積極的に採用した企業を称える、補助金がある・・・など）
被災者支援	助成金では活動に必要な機材・機器など5万円以上の価格の購入は中々認められず、「わかば基金」のように実際に必要となる機材・機器へ支援していただけた事に感謝しております。

日常生活やボランティア活動、また日頃の業務などでお忙しい中、アンケートのご記入に貴重なお時間をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

皆さまからいただいた課題やご意見などを、今後の「わかば基金」の発展に活かしていきたいと考えております。重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

「わかば基金」事務局